



臨床研究中核病院としての役割を果たすため、令和元年度は、以下の活動を行った。

(1) 総括委員会の開催

本院において実施される特定臨床研究の管理・監督業務を補佐するため総括委員会を設置し、令和元年度は、平成31年4月、令和元年6月、7月、9月、11月、令和2年1月、3月の計7回開催。

(2) 市民フォーラムの開催

臨床研究中核病院として、「未来医療フォーラム～大阪大学医学部附属病院の取り組み～」と題した市民フォーラムを令和2年2月9日（日）に開催。(図4)

(3) 患者申出療養制度

本院2例目として承認を受けた Genotype 1 型の C 型肝炎ウイルスの感染に伴う非代償性肝硬変患者に実施された「患者申出療養」の終了が告示された。(令和元年9月)

国立がん研究センター中央病院が代表施設として実施する患者申出療養（マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療）について協力医療機関として参加することを決定した。(令和2年3月)

(4) OCR-net（大阪臨床研究ネットワーク）

適正かつ効率的に多施設共同臨床研究を実施する体制を整備し、質の高い治験及び臨床研究の推進を図ることを目的に、関西圏を中心としたネットワークを立ち上げ、その中で、臨床研究に携わる職員の能力向上を目的とした臨床研究講習会の実施、臨床研究の企画・立案の支援、モニタリングの支援、データセンターによるデータマネージメント、認定臨床研究審査委員会の設置、更に、病院の電子カルテをネットワークで結び、効率的にデータ集積を可能とする ICT 基盤の整備を行っています。(図5)



図4：一般の方を対象とした市民フォーラム

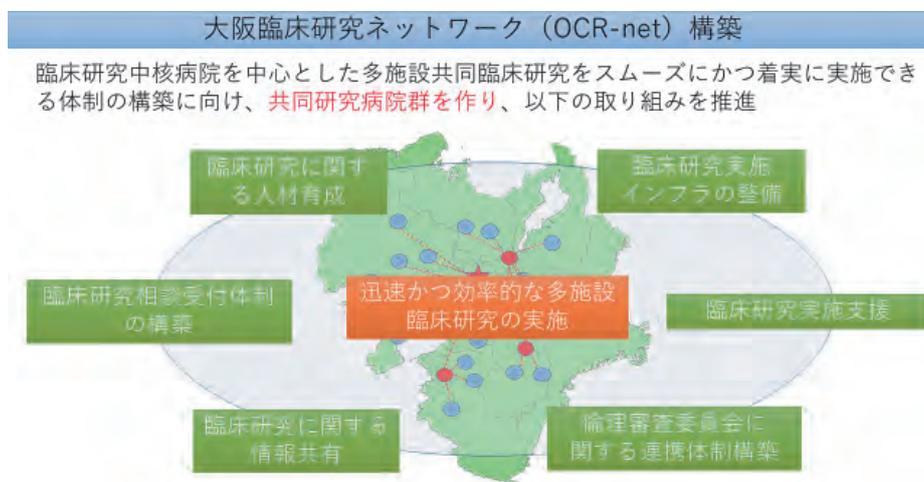


図5：OCR-net（大阪臨床研究ネットワーク）